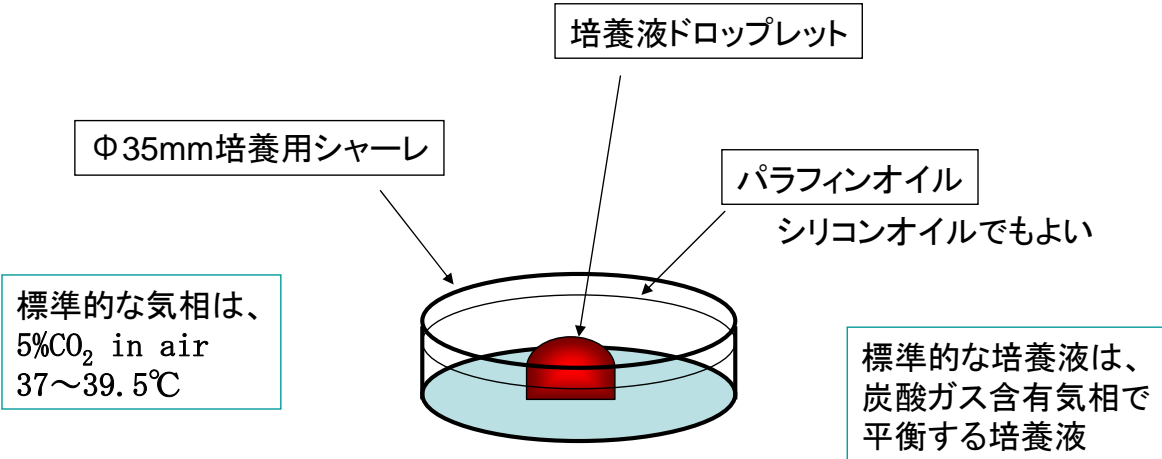


受精卵の体外培養法

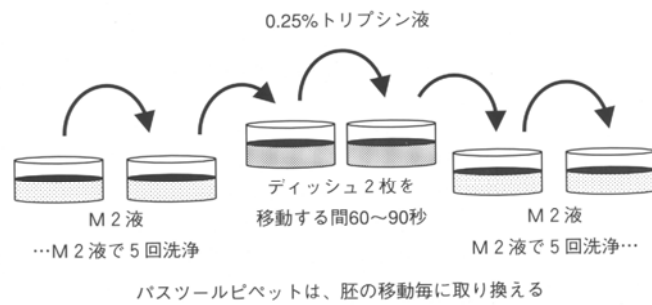


この培養方法の特徴は、

- ・少量の培養液で済む
- ・顕微鏡観察が容易
- ・パラフィンオイル等で表面を覆うので、衛生的な取り扱いが可能

(微量滴培養法)

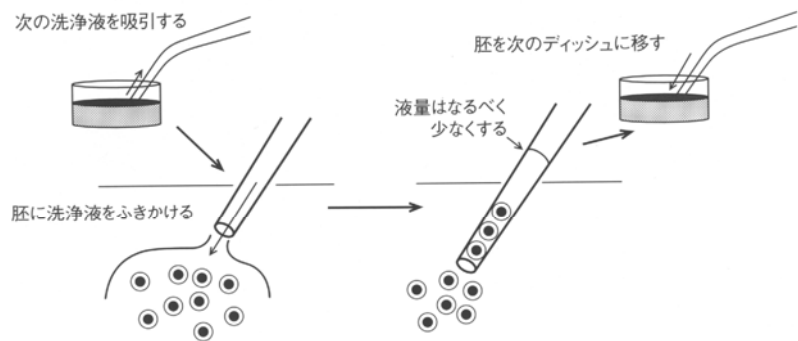
図7. 胚洗浄の手順



胚の洗浄

胚の透明帯に付着しているかも知れない病原体を洗浄することによって、可能な限り数を減らし、産まれてくる子牛はもとより受卵牛にも感染する機会を最小にする。

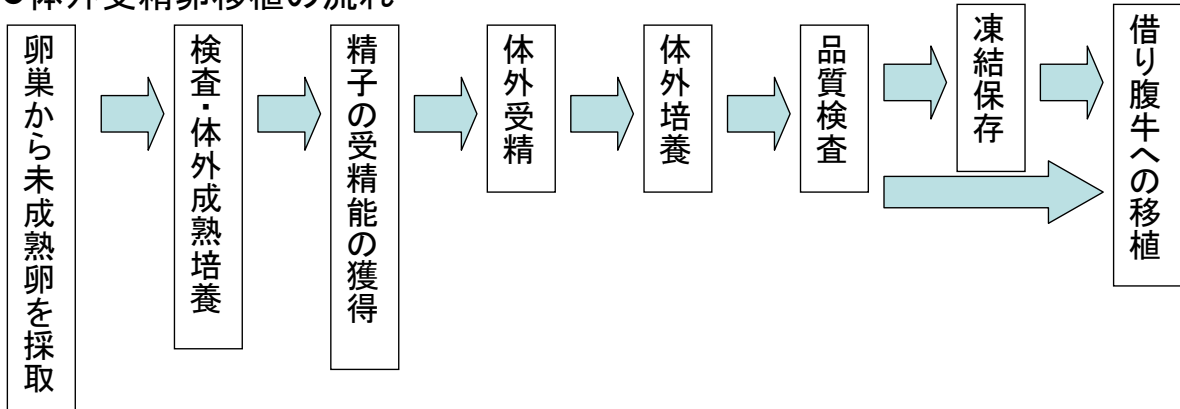
図8. 胚の洗浄



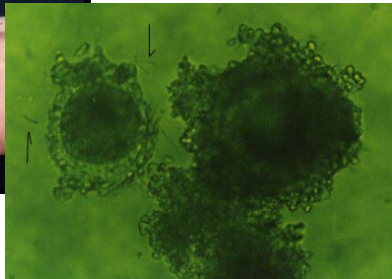
胚が入っているM2液を次のディッシュに持ち込む量をできるだけ少なくするために次の洗浄液 (M2またはトリプシン液) で胚の周囲環境を置き換えながら胚を移動させる。

2-2 体外受精卵移植

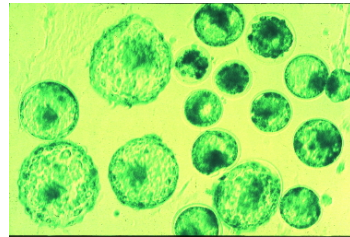
●体外受精卵移植の流れ



卵巣からの卵子吸引



体外受精(矢印は精子)



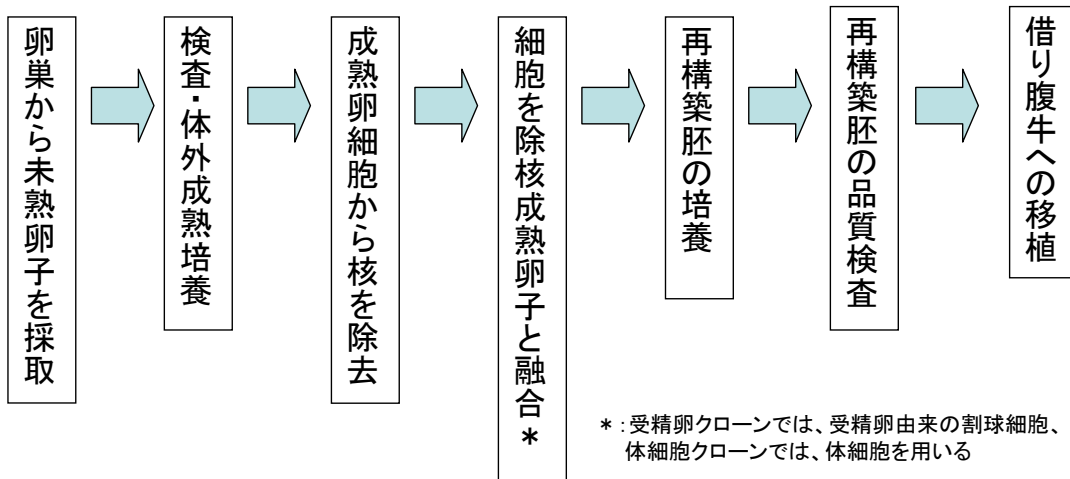
体外培養で発育した牛受精卵



移植

3 クローン技術(核移植技術)

- 細胞を提供する動物と核内遺伝子構成が同一な個体を作出する技術
- 受精卵由来の割球を用いる『**受精卵クローン**』と体細胞(培養した線維芽細胞)を用いる『**体細胞クローン**』がある
- クローン作出の流れ



*: 受精卵クローンでは、受精卵由来の割球細胞、体細胞クローンでは、体細胞を用いる